二十周年

先日、能登ワインの二十周年記念のお祝いに出席してまいりました。

２００５年、県内初のワイナリーとして産声を上げてから二十年。町民はもちろん、県内外に多くのファンを得て、今ではコンクールで賞を獲得するまでに育ちました。ここまで歩みを支えてくださったすべての方々に、あらためて感謝申し上げます。

一昨年の震災では、貯蔵タンクの被災と断水により、一時は生産が途絶えました。しかし、断水が解消すると生産を再開し、能登ワインは穴水町の復興の象徴として、多くの方々に手に取っていただきました。私自身も、震災で支援をいただいた自治体や企業を訪ねる際には、必ず能登ワインを携え、お礼の気持ちをお伝えしています。

能登ワインは、もともと第三セクターの事業体としてスタートしました。第三セクターとは、国や地方自治体（第一セクター）と民間企業（第二セクター）が共同で出資して設立・運営する法人や事業組織のことで、身近な例では、のと鉄道も同じ枠組みで運営されています。創業当初は、行政が経営に関わることへの懸念や、原料確保への不安から、否定的な声も少なくなかったと聞いています。それでも今日の能登ワインがあるのは、事業の立ち上げにご協力いただいた北海道ワイン株式会社の皆様、ブドウ栽培にご尽力いただいた地元農家の皆様、醸造と生産に汗を流してくださった社員の方々、そして何よりも温かく支え続けてくださった町民の皆様のおかげにほかなりません。

ワイン事業とは、文化そのものだと常々感じています。文化を育むには、時間と手間を惜しまぬ積み重ねが欠かせません。穴水町のワイン文化をさらに磨き上げ、能登ワインの名を全国へと広げていきたいと思います。

今年のブドウは、量・質ともに申し分ない出来だと聞いています。新酒の季節ももうすぐ。今から心待ちにしています。

穴水町長　吉村 光輝